

会 議 録

会議の名称	令和6年第3回 次期総合計画等策定委員会
開催日時	令和6年11月15日（金） 午前10時00分から午前11時45分まで
開催場所	和泉市役所 庁議室
出席者	【出席者】 森吉副市長、吉田副市長、大槻教育長、並木参与、山本危機管理部長、 前田市長公室長、土本総務部長、山崎環境産業部長、西川福祉部長、 立花市民生活部長、高橋健康づくり推進室長（子育て健康部長代理）、林田都市デザイン部長、佐々木学校教育室長（教育・こども部長代理）、辻生涯学習部長、 近藤上下水道部長、岡田消防長、竹田選挙管理委員会事務局総括参事（行政委員会事務局長代理）、井阪議会事務局長 【事務局】 （政策企画室） 門林政策企画室長、加藤政策・資産マネジメント担当総括主幹、福田企画経営担当課長、中総括主査、江口主査 （人事課） 奥課長、山口課長補佐 （財政課） 古川次長、左海課長、山岡課長補佐 （有限責任監査法人トーマツ） 玉井、黒山
会議の議題	1. 今後のスケジュールについて 2. 策定に係る意見聴取等の状況について 3. 次期総計・創発プランの構成について
会議の要旨	第6次総合計画等の策定にあたり、今後のスケジュールの見通しの報告、各種アンケート結果、学識ヒアリング、基礎調査などの調査結果の報告、次期総計・創発プランの構成についての報告を行った。
会議録の作成方法	☐ 全文記録 ☒ 要点記録

並木参与 事務局	【次第1 今後のスケジュールについて】 （事務局【政策企画室】から、資料1について説明） 次のような質疑等があった。 ○第4回、第5回の策定委員会を行い、3月にも議会報告を行うとのことだが、どの程度のものを想定しているか。また、健全化項目においては、見直し事業や廃止事業も含まれるが、議会に対してどのように説明するのか。 ○「まちづくり事業」や「健全化項目」について、次期創発プランへの位置付け方などは今後調整するため現時点での想定となるが、次期創発プランの「たたき台」には、「まちづくり事業」及び「健全化項目」の名称と簡易な取組内容を示すことを想定している。なお、健全化のために施設の廃止等を行う場合は、市民生活への影響を考慮し丁寧に進めていく必要があると考える。対外的な説明は基本的に所管課から行っていただくことを想定しているが、具体的な健全化項目が整ってから、個別に対応方法を協議させて頂きたいと考えている。
西川部長 事務局 土本部長 山本部長 事務局 土本部長	【次第2 策定に係る意見聴取等の状況について】 （事務局【政策企画室】から、資料2について説明） 次のように質疑等があった。 ○高齢単独世帯の世帯数が増えているという調査結果となっているが、実態としては同一住居に居住しつつ世帯分離しているという可能性がある。今回の調査では、実態をとらえられているのか。 ○今回の数値は国勢調査からのものであるが、国勢調査における世帯数が実質的な世帯を表すものか、形式的なものかまでは調査できていない。 ○国勢調査における世帯の概念は、住居を同じにしているかではなく生計を同じにしているかである。 ○市民アンケートの回答率は約30%だったということであるが、この回収率及び回収量は、市民意見の傾向を図るうえで十分なサンプル数となっているのか。 ○3,000人を抽出するかという根拠は、各世代、各性別100ずつサンプルがあればある程度適切という考え。前回のアンケートと比べると回答数は少ないが、サンプルとしては問題ない。 ○一般的なアンケート調査においては、信頼度95%誤差率3%程度が有意な調査といえる。回収数が950以上くらいあれば、信頼度は90%が誤差率5%くらいに収まるので、有意な調査と言えるはずだ。

吉田副市長	○基礎調査について、統計調査と世論調査に分かれている。幸福度・満足度調査の議論でも明らかなように、庁内で同じような調査を実施してその一部を掲載する形になっている。庁内で実施した調査によって、結果として示す数値や項目も異なっている。総合計画策定にあたり、なぜこの調査結果を掲載したのかという理由について、きちんと根拠を説明できるようにしておいてもらいたい。 ○学識ヒアリングについて、計画の建付けやKGI・KPIの位置づけ、基礎調査について、専門的な学識の意見をもらった方がいいと感じている。本日の報告内容で学識者から出ている意見は、まちのビジョンに係る意見である。計画の作り方についても意見を聞けるのであれば、結果を残しておいてもらいたい。
事務局	○計画の作り方という点については、第5次総合計画策定時に審議会の会長を務められた大阪公立大学の阿部先生を策定コーディネーターとして迎え、ご意見を伺う予定である。 【次第3 次期総計・創発プランの構成について】 （事務局【政策企画室】から、資料3について説明） 次のように質疑等があった。
辻部長	○今回の総合計画は「基本構想」部分のみとなるものであるなら、施策の方針は基本構想部分ではなく基本計画部分に記載すればよいのではないかと。また、将来都市像が4章に掲載されているが、市民へのインパクトを考えると、もっと前に持ってきた方がいいのではないかと。
事務局	○これまで、総合計画の基本構想部分を総合計画が、基本計画部分を創発プランが担うこととなるという説明をしてきたところであるが、構想部分のみを取り出して総合計画とした場合、総合計画としてあまりに抽象的すぎる内容となってしまうため、当初予定で基本計画に盛り込む予定であった施策の方針を総合計画に記載することで、総合計画の具体化を図った次第である。将来都市像を計画の前段に記載すべきではないかという意見についてはご指摘のとおりと思われるため、改めて事務局で検討する。
山崎部長	○事業のスクラップ・アンド・ビルドの目安として見直しラインを設けることはよいが、事業によって性質が異なる中で、一定のラインの設定を行うことは難しいのではないかと。見直しラインを下回った場合に当該事業をどう取り扱うのか、既に考え方が整理されているのであれば共有してほしい。また、これまでの和泉市では、外部評価によって事業見直しを行うという考え方があったが、外部評価との整合性については考えているか確認したい。
事務局	○見直しラインを下回った時点で事業を廃止するというわけではなく、施策の方向性を見直すきっかけとして捉えてもらいたい。方向性を見直した結果を踏まえ、継続・廃止の選択を行うことになると思われる。また、見直しラインの具体的な検討は、施策ごとのKPIを検討するにあたり、指標がどのような状態になったら見直しを行う必要があるか、という点に着目して原課に検討していただきたい。標準的な設定方法の考え方は政策企画室でも検討する。

事務局	○現時点では、事業のスクラップのために外部評価を実施するという考え方はない。今後の事業存続・廃止を検討していくにあたっては見直しラインを活用していただきたい。なお、次期創発プランの健全化項目についても外部評価で判断する予定はない。
財政課	○K P I 設定の仕方、見直しラインの置き方は原課で考えてもらう必要がある。今後、外部評価に頼ることなく見直しを行うとなると、自ら厳しい見直しラインを設定していくことが必要になることを念頭に置いてもらいたい。
森吉副市長	○行政の悪いところとして、一度施策を進めはじめてしまうと止められないということがある。新たな事業を検討するにあたって、見直しラインをしっかりと設定して、一定の利用がなければ「効果なし」として事業の見直しをするという条件をあらかじめ示しておくことが重要である。今後の行政経営上は、そういった転換の視点を自ら持つことが重要である。
吉田副市長	○総合計画と創発プラン、個別基本計画の関係は、部局長の理解を得たうえで、くれぐれもわかりやすくしてほしい。個別基本計画の方にも総合計画・創発プランとの関係を書き込んでいく必要がある。また、基礎とする視点、縦串と横串をうまく紡いでいくことが大事である。行政は、縦割りで物事を考えることは得意だが、施策横断的な横串の視点を刺していくことが難しい。ここに力を入れてほしい。 ○基礎とする視点として、「自助・共助・公助の連携」「市民の意見をどう取り入れていくか」「専門的な意見をどう取り入れていくか」が重要である。これらの視点は、すべてを横断するような視点になる。 ○将来都市像の描き方について、現在の流行りは、将来像を実現していくまでのプロセス、どのように将来像を実現していくかに重点を置いた計画づくりである。そういった考え方を念頭においてほしい。 ○K G I、K P I について、構想に近い部分はK G I、事業の先端に近づくにつれてK P I が多くなっていく。総合計画で考えると、K G I の進捗管理が重要となると考えるが、今日の報告スライドではK P I の進捗管理になっている。現在の和泉市の各種計画では、K G I を計画改訂時にしか確認しないものが多い。K G I の管理の仕方を検討しておいてもらいたい。
事務局	○事務局としても、目標に対する指標であるK G I の方が上位に来ると考えており、総合計画の方にK G I を設定しようと考えている。それに対し、成果に対する指標であるK P I は、目標の達成のために中間的に図っていく指標であると考えているため、どちらかといえば創発プランの方に盛り込んでいくことになると考えている。 ○次期総合計画においても、K G I として、市民意識調査の結果などを設定して、目標の達成度を測っていく必要がある。一方で、市民意識調査だけでなく、行政として定量的に測ることができる目標も設定する必要があると考えているが、その設定が難しい。例えば合計特殊出生率の向上などは、自治体の取組のみでは一概に達成しづらい部分もある。こういったK G I 設定をどのように行っていくか、また、そういったK G I とK P I をどのように紐づけていくかは、今後検討していく必要がある。
森吉副市長	○これまでの総合計画はまちづくりの方向性を示すもの、創発プランは施策を進めるにあたっての内部管理の計画という印象があったと思う。今回の計画では、その2つを統合するということで、違和感を覚える部分はあると思うが、うまく2つの要素を統合することができれば、実効性のある計画とすることができると考えている。今後の詳細な

	部分は引き続き詰めていく必要があるが、大枠の体系としてはこの形で進めていきたい。
事務局	○次回の策定委員会は、年末又は年始頃の実施を想定しており、総合計画・創発プランの構成について、より詳細について報告させていただく。
森吉副市長	○それでは、本日の委員会については以上とする。
	以 上